

南陽市小中学校

# 適正配置等検討委員会だより 第3号

令和6年8月1日発行 検討委員会事務局(学校教育課・管理課)

令和6年2月29日に発足した「南陽市小中学校適正配置等検討委員会」(以下「検討委員会」といいます。)では、児童生徒の将来推計をもとに、望ましい学習環境や学級数の推移、教員の配置、法令等から見た適正規模などの情報を踏まえ、小学校、中学校それぞれの考えられる課題などについて協議・検討しております。

このたびは、令和6年6月27日に第3回検討委員会を開催しました。協議・検討の内容について、市民の皆様へお知らせします。

## 第3回検討委員会について

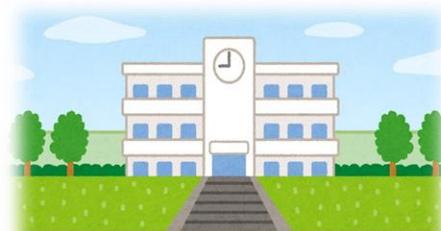
### 【第3回会議の内容】

- ・第3回 南陽市小中学校適正配置等検討委員会 令和6年6月27日開催
- ・主な議事
  - 1 南陽市小中学校の状況について
    - (1)児童生徒数の推移
    - (2)小・中学校の規模
    - (3)学校施設の現状
  - 2 児童生徒数の推移を踏まえた適正規模について
    - (1)中学校の場合
    - (2)小学校の場合

第3回の検討委員会では、上記の議事について、検討委員会における共通の認識を得るための協議(意見交換)を行いました。今回は、中学校について協議(意見交換)を行っております。

委員からの意見や質問などについて、以下、概要を掲載します。(議事録を市のホームページに掲載しています)

※ 発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。



## 小規模化する中学校で生じる課題の整理と将来の在り方

- ・ 前回の統合から 20 年近くが経過しているとすれば、人的な面と校舎の施設整備的な面を踏まえ、早急に再編整備計画を作る必要があるのではないかと懸念がある。高畠中の場合は、計画策定から統合校の開校まで数年かかっているはず。子供たちのための対応に遅れが出ないように。
- ・ 今の中学校の学校教育や適正配置の理想とする姿を考えると、「人的な部分」と「物的な部分」が大事。学級をベースにしながら、小さい学習室のような「個別化」にも対応できるような学校施設の環境があると良い。一定規模以上のクラス数があれば、教員数の確保ができ、授業でも小グループで取り出したり、習熟度別に対応したりということが可能になる。子供たちの探究心や好奇心を刺激するような環境になっていくことが理想。
- ・ 学校を外から見ている立場として、生徒の数と先生の数が合っているのかどうか疑問。先生はものすごく忙しそうに見える。中学校に関しては、ある程度の生徒の人数規模を確保し、それに見合う教員の数の確保も必要ではないか。先生の数がきちんと確保され、子供一人一人に目が届く環境にしていくことが望ましい。
- ・ 教育の現場では、コロナ禍を経てICT機器の活用が急激に進んだ。タブレットが、鉛筆やノートの代わりになっている。日本の子供は、ICT機器の活用に関する能力が世界の中でも上位であり、適正規模の検討を進めていく中であっては、そういった、日本の「進んでいる部分」を更に伸ばせるよう、施設整備の面でも配慮が必要と思う。
- ・ 明治からの日本の学校教育のシステムがほぼ変わっていない中、外国語やICT学習など、教えないといけない内容が次々に増えていて、苦勞している子供たちが増えてきている。  
また、報道等によれば「子育てに自信がないから子供は欲しくない」と考える大学生や、「管理職などの重い責任のある職は私には担えない。」と考える新入社員が増えてきているとのこと。日本の子供たちに「0を1にする力」や「ここにある問題を解決しようとする力」を育てていくことも課題である。そういった中で、これからは、「たぐさんの人の中で、何らかのトラブルが起きたとしても、問題の解決策をみんなで話し合っ、自分たちで解決していく経験」を積むことが必要。そのためには、ある程度の学校の規模が不可欠。  
すでに、令和6年度から、(前回の方針にある)1学年に3学級が編成できない中学校が出てきているのであれば、早く適正規模の学校とするべき。今後も同様の子供の減少が続くことを

考えると、南陽市として「1つの中学校」とすることを目指し、他との違いを認めながら自分自身を伸ばしていける教育を実施する必要があるのではないか。

- ・ 今は男性も当然のように育児休業を取得する時代で、教員の数は足りるのか？という印象。南陽市においても、生徒数に対しての教員数を確保できる環境の充実が必要。

- ・ 前回会議でも「中学校は1校で良い」と意見を言った。現在は、子供たちにとっての「部活動の選択肢」が減ってきたり、その分野の経験の無い先生が顧問をせざるをえなかったり、ふたつの学校が一緒にチームを組まないと大会に出られないという状況が見受けられる。

また、中学校は専門の教科の教員がいたほうが良い。専門ではない教科を生徒に指導しなければならない状況が生まれないようにしなければならない。そういう意味でも、学校はある程度の規模を確保していくことが望ましい。

- ・ 昔と比べて、子供たちは良くも悪くも「情報を得る」機会がすごく多くなっている印象。教育現場でそれを禁止したとしても別の場面で触れてしまう。それよりも、その情報をどう使うか、どういうふうなことが正しいのかを考えられる環境を教育の場で作っていかなければならない。そのためには、子供たちが独りで考えるのではなく、たくさんの意見を聞いたり、いろんな人と話し合ったりすることが出来ることがとても大切。

今、子供たちが身につけなければならない「力」が増えている。教員にも子供を育てるための専門性が求められている。子供が自分の力を伸ばすことのできる環境や、いろんな人と交わって社会性を身につける場面をすごく大事にしなければならない。

適正規模の検討や統廃合については、スピード感をもって取り組まなければならない状況であると感じている。

- ・ 学校において生徒が「先生方を選べる環境」にない。それを踏まえると「免外指導解消可（免許外の教科を指導しなければならない教員が存在しないようにできる環境のこと）」は、最低限のことだと思う。美術などの技能教科はやはり専門の先生を配置すべきで、そうになると「9学級以上を目指す」ことは最低限であり、国で定める「12～18学級」に出来るだけ近づけていくべき。

規模の大きな学校であればいろんな考えの人がおり、その中で自分を磨いていける環境を生徒に対し提供することがしやすいことから、そのように進めていくことが望ましい。



### 第3回のまとめ

- ・ 今回は、「中学校の適正規模」に絞って検討を行いました。
- ・ 多様な意見が出されましたが、子供にとって望ましい教育環境を整えるためには、  
○学校を一定規模以上で、具体的には最低でも9学級以上  
○できれば、国で定める「12学級から18学級」に近づけていくことが大事である  
という趣旨の意見が多数ありました。  
より具体的に「南陽市の中学校を1校に」「計画の策定は早急に」という意見もありました。
- ・ そのほか  
「たくさんの人の意見に触れたり、いろんな人と話し合ったりする機会の確保が重要」  
「美術などの技能教科を『免許外の教員が指導する』状況を出来る限り回避するため、教員数の確保が必要」  
「ICT機器を使用する環境の整備も含め、子供たちが情報に触れた際に正しい判断や行動ができるような教育環境を整える必要があるのではないか。」  
「教育の効果を考えたときに(学校あたりの)教員の数を確保する必要がある。」  
等の意見が出されました。
- ・ 次回、第4回目の検討委員会では「小学校の適正規模」について検討します。  
その後、これまで出された意見を整理し、教育委員会への答申(案)を作成していきます。

### 次回の検討委員会について

- ▶ 会議名 第4回 南陽市小中学校適正配置等検討委員会
- ▶ 開催日時 令和6年8月29日(木) 19時00分から
- ▶ 開催場所 南陽市役所 4階 大会議室
- ▶ 議題 ・第3回の検討事項の続き(小学校の適正規模について)

#### 【問い合わせ先】

適正配置等検討委員会事務局

▶南陽市教育委員会事務局 学校教育課・管理課

▶TEL 40-3211(代表)



検討委員会の開催概要や議事録は、南陽市教育委員会のウェブページでも掲載しています。

(南陽市小中学校適正配置等検討委員会のページ)

<http://www.city.nanyo.yamagata.jp/kyoui/5564>

※ 右のQRコードから上記ページへ→

